



「松下村塾」という場所

急に朝夕が涼しくなり、日中のお陽さまがうれしく感じますが、夏のあのものすごい暑さの疲れが出てくるころではないでしょうか、皆さん大丈夫ですか？体調管理にはくれぐれもご注意ください。

前回コラムが「『図書館』という場所」だったので、今回は「『松下村塾』という場所」ということでもないので、大館市松下村塾」について。

8月10日、松下村塾を会場に「おはなしとしょかん」夜の怖いおはなし会を実施しました。写真のようにセッティングは雰囲気ばっちり！という自己満足ですが、来てくれた子どもたちで超満員。保護者の皆さまには「講義室」に入れずにご迷惑をおかけいたしました。そのときに、「こんなところがあるなんて知らなかった」の声が聞かれましたので、ご紹介します。

❖「松下村塾」とは

松下村塾は吉田松陰が指導した私塾で、山口県萩市にあるのは皆さんご承知のことと思います。全国には7つの模築があり、大館市は4番目の模築となります。

大館市松下村塾は、竹村吉右衛門氏の私財によって、昭和59年財団法人大館鳳鳴高等学校振興会（当時）によって竣工されました。竹村氏は「青年時代最も強い刺激を受けたのは吉田松陰であった」とし、松下村塾の模築を郷里にも、と考えられたようです。

模築は萩の松下村塾を寸分違わぬ塾舎とするため、建築責任者の方は萩まで出向き、柱にある刀傷まで再現したと聞いております。竹村氏は残念ながら竣工を待たずに同年6月に亡くなっています。竹村氏の志を引き継いできた財団法人大館鳳鳴高等学校振興会は法人の解散にあたり、大館市に寄贈。使われる松下村塾として、昨年4月に栗盛記念図書館の敷地内に、これまでの風情を保ちつつ、利活用と施設管理がしやすい施設として移築されました。移築に当たっては昭和59年に建築された建物の一部が使用されています。

❖松下村塾という文字

皆さん、松下村塾の入り口の文字、わかりますか？建物が松下村塾だから松下村塾と書いていることはわかりますが、「下」は崩し字で、「邨」は「村」の異体字なのだそうです。本家が崩し字と異体字の表記なのかわかりませんが、世田谷の松陰神社にある松下村塾は「まつしたむらじゅく」と読まない限り「しょうかそんじゅく」と素直に読める表記です。

難しい表記の松下村塾ですが、「大館松下村塾歴史と歌の会」（代表・松山尚氏）では市への寄贈前から定期的に例会を開催、最近はさまざまな会の利活用がされるようになってきました。

❀ゆめ拓く男塾

「ゆめ拓く男塾～もうひとはな咲かせるために～」を、10月から全5日9コマの読み聞かせ読み手養成講座を実施します。読み聞かせはやったことがない、できない、とおっしゃるかもしれませんが、それを学ぶ講座です。しかもこの講座にはおまけがついてきます。それは読み手の認知症予防。胡散臭いと思いますか？実は医学的に証明されています。東京都健康長寿医療センターで15年間、脳の検査の裏づけのもと、読み手の認知症予防につながっているという結果が出ているそうです。

10月7日午前の1コマ目は、東京都健康長寿医療センターから講師をお招きしての講演です。「新しいことをする」ということが大切なのだから。やったことがない、という人にはぴったりの講座です。午後は東京で実際に活動されている方の実演があります。最終日を除いて4日間とも10時から12時、13時から15時までの講座となります。認知症予防のほかに、読み聞かせの活動で小さな子どもたちから元気というお土産をもらえるかもしれません。定員20名、先着順となりますので、お早目のお申し込みをお待ちしております。お問い合わせは栗盛記念図書館 ☎ 42-2525まで。（保）